



都城国際交流協会会報

MIA NEWS

ミア

ニュース

協会情報

◇国際理解講座「ベトナム料理教室」参加者募集！

ベトナム出身のダイ・チャンさんがベトナム料理の作り方を紹介します。講座は日本語で行われます。

日 時： 12月4日(日)
10:00～13:00

場 所： 都城市コミュニティセンター

参加料： MIA会員 800円

会員以外の方 1,300円

持参品： エプロン・筆記具・マスク

定 員： 10名(先着順・会員優先)

メニュー： バインセオ

その他： マスクの着用、検温、手指の消毒等にご協力をお願いします。

問合せ・申込み： 都城国際交流協会まで



◇都城市中国国際交流員や中国語圏出身の方と中国語や日本語でおしゃべりませんか？

中国語を学び始めた方から上級者の方までどなたでも参加いただけます。日本語を練習されたい中国語圏の住民の参加も大歓迎！

日 時： 12月10日(土) 13:30～15:00

場 所： 都城総合文化ホール ワークルーム

参加料： 無料

定 員： 5名(先着順・会員優先)

その他： マスクの着用、検温、手指の消毒等にご協力をお願いします。

問合せ・申込み： 都城国際交流協会まで



◇「ワールドフェスタinみやこのじょう2023」について

2023年1月15日(土)に開催予定の「ワールドフェスタinみやこのじょう2023」は、年末年始の時期で第8波による新型コロナウイルス感染症の再感染拡大も懸念されることから、中止といたしました。楽しみにしておられた方々には大変申し訳なく思いますがご了承ください。

例年通りの開催は出来ませんが、同日、都城市総合文化ホールにて開催される「初春まつり」に展示ブースを設置することとなりました。

世界の国や地域、国際交流、国際協力等の団体活動紹介などパネル展示を希望される方は、MIAまでお申し込みください。なお、展示パネルの使用枚数(スペースの広さ)は、希望団体の数によって、後日調整させていただきます。

申し込み締め切り： 令和4年11月30日(水)



各種の問合せ・申込み： 都城国際交流協会まで、
電話または、E-mailでお願いします。
電話： 0986-23-2295
E-mail: mia@btvm.ne.jp

インフォメーション

～他団体等からのお知らせ～

(公財)宮崎県国際交流協会からのお知らせです。

◇オンライン多文化共生講座

「今だから知りたい！『マイクロアグレッション』

―日常で意図せず相手を傷つけないために―

「お箸の使い方が上手ですね」「日本語が上手ですね」「アフリカ出身だからダンスが得意なのですね」そう、外国人や外国にルーツを持つ方々に言ったことがある人も多いのではないでしょうか。実はこれらは「マイクロアグレッション(小さな攻撃)」と呼ばれています。多様性を尊重し、誰もが暮らしやすい社会を作っていくために、「マイクロアグレッション」への気づきと理解を深めましょう。

日 時： 11月30日(水) 14:30～16:30

場 所： オンライン(Zoom使用)

講 師： 下地ローレンス吉孝氏

定 員： 40名(先着順)

参加費： 無 料

申込方法： Googleフォームよりお申し込みください。

<https://forms.gle/aST4eA9MVMwSGpq29>

申込締切： 11月21日(月)

問合せ・申込み：

公益財団法人宮崎県国際交流協会

TEL 0985-32-8457 FAX 0985-32-8512

E-mail: miyainfo@mif.or.jp



◇国際理解講座～ドイツ編～

「ドイツの観光地～ラースとドイツひとめぐり～」

ドイツ出身のベルガー・ラースさんに、ドイツの歴史や文化、さらにガイドブックには載っていないドイツの都市の魅力について語っていただきます。

※この講座は日本語で行われます。

日 時： 12月3日(土) 10:00～12:00

場 所： 都城市総合文化ホール 会議室1

講 師： ベルガー・ラース氏(ドイツ出身)

定 員： 25名(先着順)

参加費： 無 料

申込方法： ①氏名②住所③電話番号を、電話、FAX、メールのいずれかにてお申し込みください。

申込締切： 11月21日(月)

問合せ・申込み：

公益財団法人宮崎県国際交流協会

TEL 0985-32-8457 FAX 0985-32-8512

E-mail: miyainfo@mif.or.jp



「モンゴル人の名前」

～都城市モンゴル国際交流員 ヒシゲさんによるモンゴル紹介～

ジャルガルフー・ヒシグジャルガル???

自己紹介で名前を言うと、「難しいですね！長いですね！」とよく言われます。その難しく長いモンゴル人の名前について簡単に紹介したいと思います。

正式名は名字「父の名」・名前「本人の名」ですが、呼ぶときには本名か通称で呼びます。私は「ヒシゲ」と呼ばれています。

モンゴル人は子供に縁起の良い名前をつけます。名前の付け方がたくさんありますが、昔から言い伝えられてきた伝統的な面白い習慣があります。まず、候補として選んだいくつかの名前を別々に小さい紙に書いて、誰にも見えないように巻きます。そして、どんぶりにたつぷりと入った小麦またはお米の中に巻いた紙を入れ、左右に振ります。最初にポツンと出てきた名前を子供につけます。その後、おじいさんかお父さんが男の子だったら右耳、女の子だったら左耳に名前を小さくつぶやきます。

モンゴル人の名前は時代とともに変化しています。昔はお坊さんに名前をつけてもらうのが一般的でしたが、現在は親が名前をつけるのが増えています。チンギスハーンをはじめ歴史上の人物の名前は今も人気です。民族学におもしろいのはオトゴンフー(末の息子)というもので、この子が最後だという意味で「末子」などをつける日本の風習と似ているところもあります。

仏教が栄えていた18世紀は、チベット名とサンスクリット語の名または仏様の名をそのままつけたものも多いです。例えばチベット名の「パウー」ですが、これは英雄の意味で、モンゴル語で言うと「バトル」です。そして、1939年のノモンハン事件と第二次世界大戦時は戦争に関する名前が多かったそうです。戦争が終わった1950-1960年代は「エンフタイ

ワン」、「エンフバヤル」、「エンフサイハン」という名がたくさんありました。「エンフ」は「平和」の意味です。1981年に、モンゴル国民の英雄グルラグチャーがはじめて宇宙飛行に参加しました。当時は「グルラグチャー」をはじめ宇宙に関する名前が流行しました。

1990年代は2つの言葉からできる長い名前が流行り、兄弟みんな似ている名前がついています。例えば、私の名前は「ヒシグジャルガル」で、妹の名前は「ヒシグデレゲル」です。つまり、名前の前か後ろの一部が同じです。

モンゴルは国際化とともに、名前は呼びやすく、短くなってきています。例えば、「アヌ」、「オチ」、「ゾル」、「ウジン」などです。「外国に行ったら、いろいろな手続きや電話などでよく名前を間違えられる」、「名前の文字が長いから銀行カードに文字が全部入りきらなかった」などのアクシデントを考えて、どこに行っても簡単に呼んでもらえる短い名前をつけるようになったそうです。名前を教えるときの苦労が少しは楽になったと言えるかもしれません。



モンゴル語の縦文字で書かれた“モンゴル”



「11月11日——中国のダブルイレブン」

～都城市中国国際交流員 銭さんによる中国紹介～

11月11日は中国では「光棍節(こうこんせつ)」と呼ばれ、「光棍」とは独身者を意味します。独身であることを自虐的に祝う意味がありました。

2009年、中国のオンラインショップの「アリババ」が、「(独り身で)デートが出来ないならネットショッピングを楽しもう！」と、この日にセールを始めました。以降、11月11日は「双11(ダブルイレブン)」として中国全土に広がり、アリババをはじめ、各大手ネットショップが一斉に大規模な販促イベントを行うようになりました。2009年には5200万元だった取引額は、2021年には9651.2億元(約17兆円)となりました。売れている商品は大きく分けると化粧品・スキンケア、食品飲料、マタニティ、小型家電などがあります。セールに参入した日本企業やブランドも人気が目立ちます。

現在、「ダブル11」は「独身の日」というよりも「インターネッ

トショッピングがお得な日」として中国の人々に認識されています。今年で14年目を迎える「ダブル11」はどんな話題が飛び出すのか、期待が高まります。





オーダー バイツ

Aussie Bites (オーストラリアを、ひとかじり)

～MIA元局長 藤元幸一郎さんによるオーストラリア旅行記(第一章)です～

オーストラリア、シドニー空港到着前の日本航空機内で、入国審査が厳しいので、間違いなく記入するように言われた申告書を何度も確認して、着陸前の風景を見る余裕もなく飛行機は着陸しました。降機した海外旅行初心者の私は、パスポートを機械にかざし、出口に向かってしていると、係官は入国者のチケットを見て、パーティーで仕切られた通路を振り分け、何処で審査があるのかと歩いていると、別の係官が、「Go, Go」と叫んでいます。速足で歩いてゆくと、そこはもうオーストラリアでした。あれ、入国審査はどこ？あつけない入国でした。そこには都城市の国際交流員だった、ダリン・ハミルトンさんが待っていてくれました。もちろん彼は日本語堪能です。英語が話せない私は安心しました。

今回のオーストラリア行は、大陸横断鉄道、インディアン・パシフィック号に乗るのが大きな目的でした。シドニーから西海岸のパースまで3泊4日で走る列車です。そのうち今回乗車はシドニーからアデレードまで乗車する1泊2日の旅です。

シドニー到着の翌日、午後3時、列車はシドニーセントラル駅を発車しました。ディーゼル機関車が引く客車列車で総重量1700トンの長大編成です。客室は2段ベッド、トイレ、シャワー付の個室です。その他レストランカー、ラウンジカーが連結されています。

列車はシドニー市内をゆっくり進み、次第に郊外に出てゆきます。そのうち、家屋もほとんど見ることがなくなり、森の中を進んでゆきます。たまに建物と人が住んでいるような場所を走りますが、次第に深い森の中を走るようになります。風景にも飽きてラウンジカーに行くと、乗客がソファでお酒を飲みながらゆっくりと過ごしています。乗客はほとんどシニアの夫婦、友人の様子で、ビール、ワインは飲み放題、早速オーストラリアのビールを開けました。窓の外は、日本のように山や川や町が出てくるようには変わらず、相変わらず同じ風景

です。段々と日が暮れ、室内灯が窓に映り、外の風景も見えなくなりました。こうなれば、もう飲むことしかありません。今日の後の楽しみは夕食のレストランカーです。呼出しがあるまで、ひたすら飲みました。 ～～次号に続く～～

オーストラリア大陸横断鉄道
「インディアン・パシフィック号」

編集部より

先日、延岡市北方町にある標高760メートルの岩山で、クライミングの名所として有名な比叡山(ひえいざん)に登ってきました。

途中、何か所か眺望のいい場所がありました。絶景なのですが、高所恐怖症の私はその景色を楽しむ余裕もなく、ひたすら山頂を目指しました。そんなこんなで山頂に到着すると、早速お湯を沸かしてカップ麺とおにぎりの昼ご飯。比叡山の名所「カランコロ岩」を見ながらいただきました。しばらく休憩した後、今度は途中から別ルートで下山。往復6時間半ほどかかりました。通常4時間半ほどで往復できるとのことですが、やっぱり体力不足でしょうかね。今度は、紅葉を見に大船山に行く予定です。機会があれば報告します。 [福重]

皆さん、こんにちは。日本全国ぶらり旅コメント。今回は「福井県」のお話を少々。福井県と言えば思い浮かぶ有名なものランキングというのを見つけました！第1位は「越前ガニ」。第2位が「東尋坊(とうじんぼう)」。第3位が「恐竜(県立恐竜博物館)」なんだそうです。越前ガニと言えば、皆さんは「越前ガニ」と「ズワイガニ」の違いって分かりますか？「越前ガニ」とは福井県沖で水揚げされる「ズワイガニ」の雄みだけがそう呼ばれているのだそうです!! …知らなかったーっ(˘ ˘) 本場の「越前ガニ」食べてみたいですね(@_@;) しゃぶしゃぶで!! [西畑]

大学時代、ベトナム料理屋でバイトをしていました。その中で一番大変だったのが料理の名前と特徴を覚えることでした。ゴイセン、ゴイクン、ミートム、チャーゾー…やはり一度食べたものは覚えています。そうじゃないものは忘れていたものがほとんどです。都城にもベトナム料理屋があると聞いたので、今度行ってみようと思います。ちなみに、私が好きだったのはミートムとバインセオです。皆さん、どんな料理かわかりますか？ [川内]

市内のベトナム食材店で、田ウナギを買えました！迫田さんからの情報に感謝感激です！！田ウナギは中国語で「黄鱔(ファンシャン)」と言い、細切りにして、醤油炒めで調理すると「响油鳝丝(シャンヨーシャンスー)」になります。上海また江南地域の名物料理で、実家にいる時は好んで食べていました。ただ以前は自分で調理したことがなく、今回初めて田ウナギをさばいて炒めました。これでまた一段階料理の腕が上がったような気がします。 [銭]

9月10日の月見会、10月22日の焼肉カーニバル、10月末のハロウィーン・イベント、11月5日の盆地祭り…急にイベントが多くなっているでしょう！ようやく元通りにイベントを開催できるようになっている気がします！今まで中止になったイベントが多いですが、TALK & TALKも、新しい交流イベントもやりたくて、今から本当に楽しみです！ [ジョージ]

10月9日に中国の国際交流員銭ちゃん和ALTのリリアナさん3人で「池田いちご園」に行きました。店の窓にずらりと並んだメニューの写真からなかなか選べなくて…どれにしようかなあ～と悩んでいたら、店の人に「いちごソフトクリームが人気だよ」と言われました。ですが、ソフトクリームにマンゴ・ブルーベリーなどのフルーツ盛り合わせも食べたくて、いちごソフトクリームも食べたくて…複雑な気持ち。結局、店の人と交渉していちごソフトにフルーツ盛り合わせを注文できました。外は寒かったのですが、なんと得した気分美味しくいただきました。 [ヒシゲ]

私が担当している業務のひとつに「日本語れんしゅう会」というものがあります。原則、毎週金曜日と第二・第四日曜日に開催しています。現在11名の外国人の方々が、ボランティアの先生とマンツーマンで日本語を少しでも理解しようと真面目に取り組んでおられます。このところ参加希望者が多く、先生の人数と会場の広さの関係でお断りする状況になってきています。大変申し訳なく思っています。 [渋谷]

実家の電話修理に来た人が会社へ連絡をしていました。時々話される数字の言い方が、特徴的な話し方のような感じがして、恐る恐る「日本の方ですか？」と声をかけると、モンゴルの方でした。日本語がとても流暢だったので、ずいぶん迷いましたが声をかけて良かったです。実家に飾ってあるモンゴルグッズを見せたり、共通のモンゴル人の知り合いの話をしたりして話が盛り上がり、笑顔で帰って行かれました。 [迫田]

10月からMIAの仕事の手伝いをしています。午前中は、音楽を聴きながらコーヒー、そのあと雨でなければ、作業をしたと分かるような痕跡を残しつつの草取り。午後は、まったりの時間を過ごして、午後4時には風呂、そのあとは、アルコール入りの炭酸を呑むという生活をしておりましたが、朝出勤して、夕方帰宅という生活に逆戻りです。止まっていた頭の回転を少しずつ上げながらの毎日です。 [藤元]